

鯖江市議会・清鯖会

大門よしかかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)52-7488 携帯090-6810-2462

新年あけましておめ
でとうございます

本年もよろしくお祈りします



ごあいさつ

今年は心配された大雪に見舞われることなく平穏無事に年が明けましたこと、まずは一安心しました。

しかし、世界に目を向けますと、ウクライナ戦争は長期化し、停戦の兆しは見えません。また、中東においても依然として戦闘が続いており、今なお悲惨な被害の状況が報道されています。一方、ロサンゼルスの大火災は地球温暖化が一因とも分析されています。

人類の欲が地球環境に悪い影響を与えている事は否定できない事実です。我々平凡な市民には大きな事は出来ませんが、日々の暮らしの中で自分ができる小さな事を積み重ねるしかありません。無駄な電気は使わない。ごみの分別をしっかりと行い再資源化する。歩いて行けるところは車を使わない。そんな事をコツコツ実行するしかありません。

さて、鯖江市に目を向けますと、昨年は北陸新幹線が敦賀駅まで延伸開業しました。しかし、鯖江駅はJRからハピラインに移管され特急が廃止されました。まるで地方のローカル駅のようにになりました。東京や京都、大阪に行くにはハピラインで福井駅や敦賀駅まで行き、乗り換えが必要になりました。アクセス時間も長くなりました。鯖江市にとってはあまりメリットの感じられない新幹線ですが、嘆いてばかりはいられません。関東圏や関西圏の人達に鯖江市をいかにアピールし、目的地の一つとなるよう、知恵を絞らなければなりません。

昨年末に鯖江市出身の世界的アニメクリエイター、クリヨウジ氏をご逝去されました。享年96歳でした。クリヨウジ氏は「まなべの館」の名誉館長でした。鯖江市は氏の作品1,700点余を収蔵しています。これらの作品を収蔵庫に眠らせ続けることなく、積極的に展示公開する方策を考えたいものです。さらに、郷土出身洋画家、西山真一氏や伝統工芸越前漆器をアピールできれば、鯖江市の活性化に少なからず寄与できるのではないかと考えています。

今年は鯖江市政70周年の年です。これを足掛かりに将来に向かい飛躍の年となるよう期待したいものです。

末尾に、皆様方の今年一年のご多幸、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

(原稿作成時と状況が違っている場合があります。あしからずご了承ください。)



初日の出(HABテレビより)

1 2月議会一般質問より

(鯖江市のHPで録画の配信を行っています)

1、佐々木市長の2期目の取組

市長は再選のインタビューで「子育てと市民役、この2つは鯖江市には欠かせない。全力を傾けていきたい」と述べていました。そこで今回、この2つに絞り所信を質問しました。

〔Q〕「市民役で日本一活気のあるまち」の実現

「日本一を目指す」と高い目標を掲げるからには、次年度は新事業や拡充を考えているのではないかと。

〔A〕(市長) 本市の最大の魅力であり宝は、まちづくりに積極的に参加をしていただける市民パワー、市民力です。これをさらに高め、全ての市民の皆様が生き生きと活動ができる居場所づくりを推進することにより、一層みんなが輝き、活気に溢れる街づくりに繋がっていくと考えています。

現在、特性を生かした地区まちづくり計画の策定に向けて、来年度以降も新たに計画策定を行う地区への支援を継続するほか、計画の実行に対する支援も行ないます。そして、町内会における担い手育成にも支援を行っていくなど、実践型の市民役のまちづくりを推進し、地域から活力を広げたいと考えています。

また、市内の子供達からの御意見や、高校生、県内外の大学生といった若者からも鯖江の未来に向けた夢のある施策提案を受けています。来年度、事業として組み込める内容については、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

まちづくり基金事業、そして提案型市民役事業において

も、事業スキームや補助内容の見直しを行いながら、事業の効果を高めていきたいと考えています。

また、「さばえまつり」のように、近年の新たな市民活動に対しても、さらに活動が活発化していくよう、行政として伴走していきます。

「市民主役で日本一活気あるまち」の実現に向け、全力で市民活動を応援していきたいと考えています。



メガネフェスの一コマ。さばえまつりとSDGsフェスと同時に開催

（Q）「ワクワク子育て日本一のまち」の実現

本議会の提案理由説明の中に、「人口減少に少しでも歯止めをかけ、鯖江市に住み続けたい、住んでみたいと思っただけの鯖江市を目指したいと考えております。また、結婚や出産を迎える世代を中心とした若者の流入を促す、子育てに優しいまちづくりを推進することが必要不可欠であります。」と述べています。

鯖江市の目指すべき子育て支援とは何か。日本一と注目されるには、他の自治体と差別化される施策とは何なのか。

（A）（市長）本市の独自の取組として昨年度に引き続き、子育て応援物価高騰対策給付金事業を実施し、18歳以下の子どもたちに対し、1人当たり2万円の給付金を支給しました。また、子ども子育てトータルサポート事業として、赤ちゃん訪問おむつ券配布事業やハーフバースデー事業、絵本購入補助事業、小学1年生入学おめでとう事業などを実施しています。

また、市民団体子育てサポーターの会、COSAPOさんに委託をさせていただき、子育て応援フェスタはこれまでに2回開催をさせていただきました。来場者が延べ2,017名となり、回を重ねるごとに参加者も増えてきています。

来年度においても、出産から子育てまで、切れ目のない子育て支援や子どもの夢や、自主性を育む事業の推進に継続して取り組んでいきます。また保育、幼児教育に携わる人材の確保にも取り組みます。さらに、進学などを機に流出する若い人たちが増えているという問題もあります。一度県外に出た若者が、再び故郷に戻れるよう、環境整備や郷土愛の醸成、きっかけづくりなどが大切であると考えています。

これらに積極的に取り組み「ワクワク子育て日本一のまち」を目指していきたいと考えています。



意見 事業をたくさん増やしていけば、市民団体や職員の皆さんの負担が増えてくるのも事実です。市民団体の多くは、高齢化や担い手不足に直面しているのではないのでしょうか。職員さんも増員する状況にはないと思います。過度の負担にならないような御配慮をお願いします。

また、「日本一・・・」にこだわると、どうしても他の自治体とのサービス合戦になってしまいます。財政力が弱い鯖江市では限界があります。背伸びをし過ぎないように要望したいと思います。

2、嚮陽会館複合化施設整備について

嚮陽会館に屋内型こどもの遊び場とNPOセンター機能を移転しての複合化改修計画が進んでいます。これほどの大きな事業を行うに当たり①現施設を改修する場合。②新たな場所に新設した場合。など、複数の案を提示し、事業費、機能性、利便性、維持経費など、総合的に判断して決定していくのが妥当な手法ではないのでしょうか。

この嚮陽会館は、鯖江市のシンボル施設として各種イベントやコンベンション機能を備えた産業、文化の発信拠点として重要な役割を担ってきました。ここにさらに2つの機能を加えて、多機能複合型施設に改修しようとするものです。



複合化改修が計画されている嚮陽会館

事業計画が次第に明らかになるにつれて、この複合化施設整備は理に適うどころか、お互いの機能を相殺しかねない計画ではないかとの思いが強くなってきました。

そこで、反対のための反対ではなく、現施設改修に伴う疑問点を指摘していくとともに、私なりの対案として、屋内型こどもの遊び場とNPOセンターを複合化した新たな施設を他の場所に整備する。という選択肢もあるのではないかという観点から、次のような質問をしました。

（Q）概算について

県内各地で屋内型こどもの遊び場の計画や整備が進んでいます。大野市では「おおの天空パークOSORA」が1月25日にオープンします。延べ床面積1,674㎡、事業費約2億9,661万円です。坂井市では、坂井屋内スポーツセンターに屋内型こどもの遊び場を整備予定です。延べ床面積およそ1,800㎡、総事業費約7億3,100万円とあります。敦賀市では敦賀市こどもの国をリニューアルして整備します。設計、施工で1億9,797万円を見込んでいます。

整備内容が違いますから単純に比べられるものではありませんが、嚮陽会館の改修費用の概算はどのくらいか。

(A) 嚮陽会館複合交流施設整備基本計画では、概算事業費を約25億円と試算をしています。内訳は、建物全体の修繕費用として約17.4億円。ZEB*1 ready化費用として約3.6億円。また、設計等の費用として約1.2億円。創造的改修費用として約2.3億円となっています。現在は設計作業を進めている最中です。市民の皆様の意見等を反映した結果、ゾーンや機能の見直しなど、幾つかの変更箇所も出てきています。来年(令和7年)2月頃をめどに概算事業費をお示したいと考えています。

*1 ZEB ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(略称で「ゼブ」と呼ぶ。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のこと。(環境省 HP より)

意見 現施設は40年経過しています。それを改修しても、30~40年後には建て替えという話も当然出てきます。

対案として、子供の遊び場とNPOセンターの機能に絞ってコンパクトかつエネルギー効率に優れた施設を新築した方が、早く、安くできるのではないかと。維持費も安くなり、耐用年数80年を見込めるため、コストパフォーマンスも良くなります。

(Q) 中庭の竹林を残すのか残さないのか

直近の説明会では、竹林を廃し、室内空間化する案が進んでいるとのこと。専門家の見解では建築法上、強度計算をやり直す必要があり、屋根を支えるための柱を立てる必要がある。そうすると基礎工事が必要となり、重機を入れるために建物の一部を取り壊す必要もあるとのこと。となりますと、大変な工事となります。中庭部分を屋内化するだけでも工事費の大幅アップは避けられません。



室内化が計画されている中庭の竹林

嚮陽会館の竹林は、日本的な風情を感じさせる落ち着いた空間を演出しています。建物全体に潤いを与えています。この景観は高く評価すべきものと思います。

仮に中庭に屋根をかけ、屋内空間とする場合、概算でどの程度の費用が見込まれるのか。

(A) 嚮陽会館の中庭は、その歴史の中で多くの人々に愛され、魅力的な空間として親しまれてきました。しかし、基本計画の策定過程におき、この中庭空間の有効活用について多くの意見をいただきました。内部での再検討を重ねてきた結果、中庭を室内化する方針を決め、11月の特別委員会に検討案としてお示しました。

中庭を室内化することにより、多世代が交流するイベントやワークショップを開催することも可能になり、市民の交流の場として更なる賑わいを創出できるのでないかと考えています。また、建物全体の表面積が小さくなり、省エネルギー性

能を高める効果もあります。

今後は施工方法、空調設備等の課題、また、施工費用などについても設計事業者と協議をし、検討を進めていきます。

(Q) 駐車場確保のために嚮陽会館庭園(ふれあい広場)を大幅に縮小するのか

複合化施設整備に対して、現在の駐車場では収容台数の不足が指摘されています。収容台数を増やすには、嚮陽会館前庭園(ふれあい広場)を大幅に縮小し、再区画化するしかありません。この公園はまちの中心部にあり、景観上非常に大切な空間です。新緑の頃の爽やかな緑、晩秋の鮮やかな紅葉と、四季の移ろいを感じさせてくれる癒しの公園と感じています。また、園内には巨大な石碑と記念碑が設置されています。これを移動するだけでも大変な工事となるでしょう。嚮陽会館の駐車場はどのように整備するつもりなのか。



紅葉の美しいふれあい広場(駐車場拡張のため、伐採を検討中)

(A) 現在、嚮陽会館の複合施設の整備に併せて、駐車場改修を検討しています。現在、必要台数の算定を行っている段階です。今回の整備に当たり、駐車場台数の確保、シニア世代から子育て世代まで幅広い利用者に対して、安全で安心、通行しやすく利便性の高い駐車施設となるよう検討していきたいと考えています。

また、ふれあい広場についても、様々な世代の人たちが屋外活動などで利用されています。こちらも、駐車場を含めて総合的に判断をさせていただきたいと考えています。

意見 中庭の竹林やふれあい広場など、市民の癒しの空間を撤去や大幅に縮小する方向で計画が進んでいます。大切に守ってきたもの、市民に親しまれてきた自然を無くして良いのでしょうか。今一度考えていただきたいと思います。

(Q) 嚮陽会館の本来の機能低下は避けられないが

嚮陽会館は、多目的ホールとギャラリーを一体的に活用することにより、大がかりなイベントやコンベンションに応えてきました。鯖江の文化と産業の発信基地でした。特に、開放的で明るいギャラリーは、他市町からも羨まれる施設であると思います。今でも市美展、文化協議会総合展、菊花展、さばえものづくり博など、両方のスペースがあつての展示会やイベントが数多く行われてきました。しかし、今回の整備計画では、ギャラリーは子どもの遊び場に改修されます。そうならば、今まで多目的ホールとギャラリーを一体的に使用していたイベントは、多目的ホールのみでの開催を余儀なくされます。スペース的には約半減ということになります。これでは、文化や産業の発信力低下は免れないのではないかと。

(A) 嚮陽会館は、市民の文化活動や交流の場として重要な役割を担い、多目的ホールや会議室は、地域の交流や活動の拠点として機能してきました。

現在進めています基本設計では、多目的ホールのホール機能については、過去1年間の利用状況を把握し、収容想定人数を500人として検討を進めています。客席については、これまでのホール機能に加え、映画鑑賞やミニコンサートなど、多様な使用に対応するため、防音対策のための二重扉の設置や、自動型の移動式客席の導入、既存ステージの撤去等も検討しています。代わりに移動型の簡易ステージの導入を検討しています。

ギャラリーは、子どもの遊び場になる計画です。その一部は柔軟な空間とし、中庭の室内化も含めて、単一用途ではなく、多世代が多目的に使える空間として整備する計画です。嚮陽会館の機能をさらに拡充させ、より多くの方々に利用しやすい施設を目指す計画としていきます。

先月、嚮陽会館で活動されている団体の皆様と意見交換を行わせていただきました。御意見、御要望等もいただいておりますので、そうした点もしっかりと対応していきます。



子どもの遊び場に改修予定のギャラリー

(Q) 子どもの遊び場との複合化は無理があるのではないか

イベントや公演時に、子どもの遊び場からの騒音に対する懸念の声もあります。もともとホール機能と子どもの遊び場とは相性が悪い取り合わせではないかと思えます。イベント時の子どもの遊び場対応、防音対策について市の見解は。

(A) 子どもの遊び場は、遊具だけを設置する遊技場ではありません。子どもの社会性や創造性を育み、産業や自然、文化等を知り、学ぶことができる学びの場であると考えています。子どもたちが市民活動について知り、参加し、体験することで興味を持ってもらい、そういった関わりの中から新たな担い手づくりやまちづくりに繋げていきたいというのが、この複合化の狙いです。

子どもの遊び場という特性から、音漏れ、あるいは混雑といった課題を御指摘いただいておりますが、遊び場の配置、音漏れの軽減対策も必要であると認識をしています。設計事業者と工夫、検討していきます。

(Q) NPOセンターとしての機能低下にならないか

市長は常々「鯖江の宝は市民力である」と言っています。その大きな役割を担っているのが、多くの市民団体です。今

回、その活動拠点を嚮陽会館2階部分に移す計画を進めています。しかし、それぞれの団体に振り分けられる個別スペースはロッカー1個分程度にしかありません。幾つかの団体からの不満と懸念の声が聞かれます。

それぞれの市民活動団体は、多くの機材、書庫、書類や資料に満ちていました。これらはとても計画中のフロアに持ち込めるものではありません。現場の職員さんからは「ノートパソコン程度しか持ち込めないフリースペースの事務所ではとても仕事ができない。このまま推し進めるなら、市民活動は低下していきだろう」と感想を述べていました。

市長は市民力を高く評価し、鯖江の宝と持ち上げていますが、今の計画では、現施設の数分の1しかない狭い空間に押しやろうとしています。言っている事と、やろうとする事にギャップを感じます。これでは市民活動が大幅に縮小するのではないかと。

(A) 令和5年3月に関係の皆様から御提案のあった「市民役所構想」を実現する場として整備したいと思えます。

嚮陽会館内にNPOセンター、子どもの遊戯施設、多目的ホールを複合化することで、より多くの市民の方、団体の皆様に利用していただくと考えています。また、現在のNPOセンターが抱えている課題。利用者が固定化している。どんな活動をしているのか分かりにくい。などの解決にも繋がるものと考えています。

各団体の皆様には御理解、御協力いただけるよう、引き続き双方向での意見交換を重ねていきます。



(Q) ふれあい広場駐車場近辺に新たな施設整備をすべきでは

私は嚮陽会館を無理やり複合化するのではなく、屋内型子どもの遊び場とNPOセンターを複合化した新しい施設を造るべきではないかと考えます。場所としては、ふれあい広場の一角か、その近辺が理想的と思えます。設計者もゼロからの発想で造り上げられます。存分にアイデアを盛り込み、真に子どもたちや保護者に喜ばれる施設となるでしょう。

その上、NPO団体には必要な個別のスペースや倉庫を確保できます。現在の場所よりも快適な空間が得られれば、より一層活動に身が入るのではないのでしょうか。

また、ゼロカーボンシティ宣言に合致したZEBを目指した施設とすることができ、運営コストを長期的に低減できます。現計画は一旦見直し、新たな施設整備を提案します。

(A) 全く新しい場所に新しい形ですということですが、現在、皆様の御要望や声を尊重しながら基本設計を進めているところです。御提案には、なかなかそういうことは難しいなというふうに思います。

あとがき 毎回悩むところですが、紙面の制約があるため、質問内容、項目、答弁など、大幅な割愛が余儀なくされます。言葉足らずや、内容の不十分な点はご容赦をお願いします。今号も、やや文字を詰め込み過ぎたようです。最後までお読みいただきありがとうございました。